

北本市長 三宮幸雄様

令和8年8月18日

北本市議会 会派みらい
大嶋達巳 工藤日出夫 金森すみ子
村田裕子 毛呂一夫 小久保博雅

令和9年度予算編成に向けての要望

【第六次北本市総合振興計画】をベースに以下の要望を提出致します。

〈こどもの成長を支えるまち〉

◇こどもの権利

- ・ **子どもの権利に関する条例の市民周知と理解の促進（学校との連携も進めて）**

〈安心・安全で自然と共存する住みやすいまち〉

◇道路、上・下水道、河川

- ・ **市道27号線の延伸**

◇消防・防災

- ・ **体育センター内の通話、通信環境の改善**
- ・ **防災士資格取得試験受講費援助金**

地域の防災力の向上には、防災に関する基礎知識を有する防災士が有用であり、各地の自主防災組織で活動しています。防災士の資格を取得するには、ステップ1として日本防災士機構が認証した研修機関が実施する「防災士養成研修講座」を受講し、「研修履修証明」を取得します。ステップ2として、日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」を受験し、合格する(受験料=3,000円(税込))。ただし受験資格はステップ1の研修講座の履修証明を取得した者に限られます。ステップ3として、全国の自治体、地域消防署、日本赤十字社等の公的機関、またはそれに準ずる団体が主催する「救急救命講習」(心肺蘇生法やAEDを含む)を受け、その修了証を取得します。その後、日本防災士機構への「防災士認証登録申請」を行うことが出来ます(申請料=5,000円(税込))。「防災士認証登録申請」を適正に提出していただいた人に「防災士認証状」「防災士証(カード)」を日本防災士機構から交付されることとなります。これに対し、久喜市などでは、個人向けの防災士資格取得費用の直接補助はありませんが、地域で活動する「自主防災組織」を対象とした補助金制度の中で、防災士育成研修費などの経費が援助(補助)されます。北本市でも防災庁を誘致するのであれば、地域防災力の向上策の1つとして、防災士取得支援に関する予算を確保していただきたい。

◇交通・防犯

- ・ **市営バスの創設 自治体が主導するバス運行(コミュニティバスや自治体バス)**
地域交通の維持や利便性向上、収支改善などで先進的な成功事例として評価され

ている代表的な自治体

1. 東京都武蔵野市（ムーバス）

特徴: 日本のコミュニティバスのパイオニア。100円均一運賃、小型バスの採用、短距離高頻度運航、バス停間隔の短縮などを導入。

成功の理由: 既存の大型路線バスが入っていけない狭い住宅街や駅前の交通空白地帯を網羅。市民の利便性を高め、高い採算性と利用実績を維持。

2. 京都府京都市 醍醐地区（醍醐コミュニティバス）

特徴: 行政任せではなく、地域住民と民間企業（事業者）が主体となって立ち上げた運行モデル。

成功の理由: 地域の潜在ニーズを正確に把握したルート設定により、運行開始からわずか数年で黒字化を達成。地域住民がマイカーからバス利用へシフトし、利用者を増やした稀有な成功例です。

3. 福井県鯖江市（つつじバス）

特徴: open data（オープンデータ）やIT・オープンイノベーションを積極的に活用。

成功の理由: リアルタイムのバスロケシステム（運行位置情報）や乗降データの徹底分析を行い、利用者のニーズに合わせた路線見直しやデマンド運行への移行などを効率的に行っています。

4. 鳥取県日南町（町営バス）

特徴: 中山間地域における「自家用有償旅客運送（旧80条バス）」の先進例。

成功の理由: 過疎化が進むエリアで民間路線バス撤退後、町がバスを買い取り自前で運用。福祉タクシーやデマンド（予約制）型乗り合いタクシーとの組み合わせで、コストを抑えつつ高齢者の移動手段を隙間なく確保。

* 成功自治体に共通するポイントは、大型バスではなく小型車両やデマンド型を採用し、狭い道や高齢者の多い住宅地までカバーしている。また、自治体が補助金を出すだけでなく、地域住民や地元企業と一体となって路線・ダイヤを設計している。データとITを活用して、乗降実績データに基づいた迅速なルート改定や、位置情報アプリによる利便性向上させている。運行ルート決定にも住民目線でのルート検討がされていました。

・ **LINE専用ミニアプリや音声認識AI電話（オートコール・ボイスボット）の導入**

北本市デマンドバスの運用コスト削減と利便性向上において非常に効果的である。すでに全国の先進自治体で導入が進んでいるアプローチです。利用者の中心である高齢者層は「電話予約」に集中する傾向があり、日中のコールセンターの人件費負担や、深夜帯の電話受付ができない点が課題でしたが、LINEアプリや音声AI電話の導入によって、コールセンター人件費の大幅削減、音声認識AI（ボイスボット）の活用で、電話をかけた利用者の発話（例：「明日の10時に〇×病院まで」）をAIが自動で認識し、予約システムへ即時登録します。オペレーターを介さないため、人件費を大幅に圧縮できます。AIで対応しきれない複雑な問い合わせのみ人間につなぐ運用にすることで、受電体制の規模を縮小できます。電話予約の「24時間・365日対応」化、現在18:00で終了している電話受付を、AI

電話の導入により24時間対応可能に延長できます。「翌朝一番で乗りたいが、前日夜に電話が繋がらない」「早朝に予定が決まった」といったニーズに応えられるようになります。

高齢者のデジタル移行（LINEミニアプリ）専用ウェブサイトでの会員登録やログインは高齢者にとってハードルが高いですが、普段から家族との連絡で使い慣れている「LINE」を活用した「LINE予約」であれば、ハードルが大幅に下がります。乗車前リマインド（「まもなくお迎えが来ます」通知）をLINEで送ることで、乗り遅れやキャンセルの防止にも寄与します。

先進自治体での成功事例すでに全国の自治体で「LINE予約」や「AI音声予約」を組み合わせたデマンド交通（AIオンデマンドバス）の導入が進んでいます。富山県朝日町（ノッカルあさひまち）や静岡県・茨城県などの自治体LINE公式アカウントを活用し、チャット形式で簡単に行き先と時間を指定できる仕組みを構築。高齢者でも直感的に操作できるデザインを採用し、WEB予約率の向上に成功しました。AI電話（音声対話AI）を導入した地域（例：長野県、群馬県などの自治）「電話派」の高齢者向けにAI電話サービスを導入。AIが標準語や方言・言葉のゆらぎ（例：「〇〇病院」と「〇〇さん家」など）を認識し、オペレーター不要で予約完了まで完結させるシステムを実現しています。

また、国の「地域未来交付金」などの補助金を活用することで自治体負担を抑えることができます。高齢者への音声AIの認識精度滑舌や方言、曖昧な言い回し（「朝の10時くらい」等）に対してAIが正しく認識できるかどうかのチューニングが必要ですが、認識できない場合は自動で人間（コールセンター）へ転送するバックアップ体制も不可欠です。北本市デマンドバスにおいて、「LINE予約」と「音声認識AI電話」の導入は、コスト削減（人件費抑制）と住民サービス向上（予約時間の24時間化・利便向上）を同時に達成できる極めて有効な手法と考えます。特に「WEB操作は難しいが、電話なら使える」という高齢者層を完全に切り捨てずに人件費を削る解決策として、AI電話の導入は非常に現実的かつ先進的な提案と言えます。

・自転車通行帯の確保

公共交通機関の利便性低下および健康志向から自転車を利用する人が増えていきます。しかしながら交通事故の全体数が減る中で、事故全体に占める自転車事故の割合は高くなっています。自転車事故の防止策として、自転車専用道を設置することが有効ですが、自転車専用道の設置は土地の問題などがあり、簡単にはできず、道路に新設時や、大幅な拡幅時に設置されているのが、現状です。一方、自転車帯は道路の拡幅の必要はなく、車道の左側端に青色などの塗装や標識で示された、自転車が優先・専用で走るための車線です。このレーンがある場所で、自転車は原則としてここを通行しなければなりません。自動車や原付は原則として走れません。自転車通行量の多い市道や、中学生、高校生の自転車での通学路となっている市道に自転車通行帯を塗装で確保する予算処置をお願いします。

◇住環境

・公園の再整備推進

第6次総合振興計画で公園の目指す姿は、公園が整備され、適切な維持管理が行われ、市民に親しまれていますとされています。しかしながら、多くの都市公園で、人影があまりみられません。周辺地域の居住者の年齢層に合わせた公園の再整備を進めて頂くようにお願いします。また、市民からは、日陰がなく行く気がしないとの声も伺います。ベンチ周辺に大きな樹木を植え木陰を作るとか、パーゴラ（藤棚）、人工のシェード、東屋（あずまや）を設置する方法もあります。特に人工シェードは比較的安価にできるものもあり、市民の憩い場としての公園となるよう日陰確保の推進をお願いします。

◇環境

・公共施設再編時にドッグランの併設検討要望

健康福祉増進センターの再編は決まっているので、その中の設備の一環として、小型・中型犬用と大型犬用の2種類のドッグラン設置を要望します。北本高校模擬議会でも提案の有ったように、北本市内では3,000頭を超える犬が飼養されており、その飼い主は異口同音に市内で安全に利用できるドッグランを切望しています。市民への福利厚生の一環として検討をお願いします。

北本では、公園内に併設というよりも公共施設の再整備の時に検討する方が現実的ではないかと考えます。

ドッグアジリティという世界大会があり、日本は上位に入るレベルであり、その設備のあるドッグラン施設は、災害時にペット同伴の避難場所にもなります。

・地域猫活動及びペット飼養啓発活動に対する要望

市民の税金で建設された市役所－特に、市庁舎ホールの利用について、上述の活動を広く認知してもらうべく、地域猫活動・保護猫活動を行っているボランティア団体への無償貸出しを検討願いたい。そして、そこで啓発活動のためのパネル展示会開催が出来るようにしていただきたい。公共利益に供する活動に対しては無償扱いとすべきであり、市庁舎ホールの利用開放は必要不可欠ではないでしょうか。また、猫の繁殖力は物凄いのので、飼主の飼養に関する知識不足は、北本市内に野良猫を増殖させることになり、環境悪化の元凶ともなります。飼養に関する啓発活動は環境問題とも密接につながっています。動物愛護団体による市庁舎ホール利用解禁を検討下さい。

・ゼロカーボンシティ宣言都市として取組の推進（行政側の意識を高めた事業取組を）

〈健康でいきいきと暮らせるまち〉

◇保険・医療

・アピアランスケア用品購入費助成をがん以外の患者に対象拡大

◇高齢者福祉

・カーレットの導入（高齢者ラウンジや生涯スポーツとして）

◇地域福祉

・民間有償移送サービスに対する補助

現在、北本市では一人で公共交通機関やタクシーを使うのが難しい高齢者や障がい者は、NPO法人や社会福祉協議会などが自家用車で病院や施設への送迎を行う、個別輸送サービスで行われています。障害者の場合は、介護保険の対象となり、保険からの給付が行われています。ところが、介護保険では対象者が同乗している時のみが、給付対象となるため、例えば病院への移送の場合、片道利用だけだと、片道分は保険対象外であり、事業者の負担となります。このことから、全国的に、民間有償移送サービスは利用者増加しているにもかかわらず、運営が厳しい状況に追い込まれています。北本市の福祉対策として、民間の有償移送サービスはなくてはならない存在と考え、一定額の補助金を予算化して頂きたい。

◇障がい者福祉

- ・ **自動車燃料費助成の増額（物価高騰、ガソリン単価も高騰している）**

◇生涯学習・スポーツ活動

- ・ **公民館の確実なLED化と積極的修繕**

〈活力あふれるまち〉

◇文化財の保存・活用

- ・ **歴史遺産、文化遺産の公開施設の設置推進**

北本市は多くの歴史遺産、文化遺産を有しています。しかしながら、それらは市のホームページで見ることができる場所が紹介されているだけで、市民における認知度も高いといえませんが、常設の施設でこれらを見られる（写真等）、学べる施設を設置し、有効に活用すべきだと考えます。まずは、どのように公開するのがいいのか、どのような施設がいいのかなどの調査、企画予算を確保し、将来の常設施設の構築を目指して頂きたい。

〈みんなが参加し育てるまち〉

◇地域活動

- ・ **東地域コミュニティ事務スペースの環境改善**
- ・ **地域コミュニティ維持への支援（地域のつながりの希薄化へ対応の強化）**

◇市民参画・協働

- ・ **市民公益活動・市民公益活動や協働事業の推進（行政側の積極的な関わりを更に進めて）**

以上